［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価報告概要表

作成日　2008年12月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1071100372
法人名	株式会社ティエムコーポレィション
事業所名	グループホームけやき
所在地	安中市中宿1-9-17 （電　話）　027-380-5016

評価機関名	特定非営利活動法人　　群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年12月3日

【情報提供票より】（　平成20年　10月　20日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 17年　9月　1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	10　人	常勤　8人，非常勤　2人　常勤換算　7.5人

（2）建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての　1 階　～　1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（月額）	40,500　円		その他の経費（月額）	
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200　円	昼食	350　円
	夕食	350　円	おやつ	100　円
	又は1日　1,000円			

（4）利用者の概要（　10月　20日現在）

利用者人数		9 名	男性　1 名	女性	8 名
要介護1		4　名	要介護2	1	名
要介護3		3　名	要介護4	1	名
要介護5		0　名	要支援2	0	名
年齢	平均	87 歳	最低　83 歳	最高	93 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	正田病院・須藤病院・さわやかクリニック・永山歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの庭にはネーミングとなった大きな欅の木があり、夏には木陰を作り、秋には紅葉や落ち葉の上で、入居者はお茶を飲んだり、行事を楽しむなど安らぎの場となっている。理念の「尊厳・安全・自立・安心・自由」に加え、「地域社会の一員として、その人らしい暮らしが続けられる」とし、地域の人達との交流を大切に、毎日の散歩や隣接した野菜直売所での地元の人との挨拶や談笑、地域の祭りへの参加など、地域生活者の一員としての暮らしを大切にしている。運営者と管理者は、職員を育てることに熱心であり、外部研修に積極的に参加し、また内部研修を開催し、職員がおむつを着けての体験も実施し、「オムツはずし」に積極的に取り組んでいる。また、看護職員がおり、入居者の日常の健康管理や状態変化時にも、協力医との連携の下、対応でき安心できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回評価の改善課題に前向きに取り組まれているが、玄関の施錠については、職員と会議で繰り返し検討したが、玄関前が交通量の多い道路であり安全を守るため、施錠はやむを得ないとしている。家族には了解していただいている。風呂場脱衣所の裏口は、鍵はかけていないので出入りは出来るようになっている **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 会議、カンファレンス、勉強会で職員から話を聞き、管理者がまとめて自己評価票を作成している。更に職員と一緒に評価項目一つひとつを振り返り見直していただきたい。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、開催通知を全家族にしている。ホームからの現状報告、行事報告、外部評価報告等を行い、意見交換が行われている。また「安全管理について」「介護保険について」の勉強会を行い、地域の方も参加している。地域の方から、老人会の輪投げやカラオケのお誘いも頂き、サービス向上に役立てている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 家族の面会時に、意見や苦情を聞いている。また、投書箱を設置したり、安中市や国民健康保険団体連合会の相談窓口を、パンフレット等を渡して説明している。介護相談員の訪問時に意見や要望等を聞いていただき、出された意見や要望等を運営に反映させている。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 地域の一員として町内会に加入し、回覧板を通して行事や町内の動きを把握している。毎日の散歩時に近隣の方と挨拶を交わしたり、隣の野菜直売所に立ち寄り会話を楽しんでいる。また、地域の祭り、餅つき大会、芋掘り等に参加し、交流を深めている。地域のボランティアや学生の方々の受け入れをしている。

2. 評 価 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からの理念を見直し、「地域社会の一員として、その人らしい暮らしが続けられるよう支援します」が加えられ、家庭的環境の下で日常生活の支援をする理念を創りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホール入り口や事務室に掲げ、実践に努めている。管理者は、採用時や会議・勉強会の折に職員に理念を伝えており、日々の介護で悩む時にはカンファレンスで理念を振り返り、入居者の尊厳を大切に支援している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として町内会に入り、回覧板で行事や町内の動きを把握している。地域行事のお祭りや餅つき大会、農家の芋掘り等に参加して、地元の方達と交流している。学生や地域ボランティアの受け入れもしている。入居者は毎日散歩に出かけ、行き交う地元の方と挨拶を交わし、花や野菜、果物等を頂いている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員、評価の意義を理解している。前回評価の改善課題に前向きに取り組み、玄関の施錠について会議で繰り返し検討したが、玄関前が交通量の多い道路であり、安全を守る為施錠はやむを得ずとしている。管理者は、普段のミーティングから職員の意見を聞き自己評価を作成し、見ておくように話している。	○	自己評価については、職員と一緒に評価項目一つひとつに取り組み、ケアの振り返りや見直しをしていただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、家族全員に開催通知をしている。ホームからの現状報告、行事報告、外部評価報告等行い、意見交換が行われている。また「安全管理について」「介護保険について」等勉強会も行い、地域の方も参加している。地域の方からは、老人会の輪投げやカラオケのお誘いもあり、意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とメールで情報交換を行い、市の会議や研修会に参加したり、他の施設の行事情報を得ている。問題があれば市に出向き相談事をする等指導を受けて、サービスの質の向上に努めている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に必ず声かけを行い、入居者の暮らしぶりや健康状態等を写真を見て頂きながら報告している。また「けやき新聞」を毎月発行し、行事等様々な報告をしている。金銭は基本的には持たないことになっているが、希望で少額を持っている入居者もいる。日用品の購入時は、立替えて、レシートを提示し支払ってもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	安中市や国民健康保険団体連合会等の相談窓口を、パンフレットを渡し説明している。また、投書箱を設置している。家族からの意見がもらえるよう訪問時に聞いたり、市の介護相談員の訪問時に聞いて頂き、意見や要望は運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を防ぐため、面接をしたり、慰労会を行っている。やむ終えず離職がある場合、入居者には話さず、引き継ぎの時間を長く取りスムーズに職員の交代が出来るようにしている。退職後も、時々遊びに来てもらっている。家族には、面会時や「けやき新聞」で知らせている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県が主催する認知症やリハビリ等の研修会、管理者研修会等に、職員の希望をとり交代で参加出来るようにし、積極的に外部研修を受講できるようにしている。受講後は、報告書提出と職場内で報告会を行い、職員全員で共有している。施設内研修も行われており、職員がオムツを着けての体験研修を行い感想を出す等、計画的に勉強会を行い、「オムツはずし」に積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市で行っているケアマネージャー連絡会議の中で、他のグループホームとの交流や情報交換が行われているが、相互訪問研修は行っていない。新しく立ち上げるグループホームの職員の見学を受け入れている。	○	情報交換等交流を行いながら、交流を活かした取り組みに期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、家族にホームを見学してもらい、施設長及び管理者は自宅や入院先を訪問し、どんな生活をしていたのか等生活暦を聞いたり、呼び方の希望を聞いて馴染めるよう支援している。入居後は、ホームの雰囲気や他の入居者や職員に慣れてもらえるように取り組んでいる。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と一緒に季節料理等をつくったり、地域の風習等教えて頂いている。洗濯物を干したり、たたんだり、農家だった入居者から、野菜作りや欅の落ち葉をまとめ肥料づくり等を教えていただいている。「ありがとう」の労いの言葉を頂き、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ドライブ、食事、レクリエーション等の希望を、日常の生活の中で一人ひとりとの会話や表情から、思いや希望の把握に努め、家族からも話しを聞いて、入居者の視点に立って対応している。困難な場合は、本人本位に検討している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人の希望や家族等の訪問時に話し合い希望を聞いている。介護日誌や業務日誌、チェック表等の情報を参考に、カンファレンスで話し合い、医師の意見も反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者全員の介護計画を、ケアチェック表やサービス担当者会議で検討し、3ヶ月毎に見直している。心身の変化がある場合は、その都度カンファレンスで見直しを行い、家族には電話で伝えて現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況により、通院の送迎や墓参り、自宅まで一緒に行く等の支援している。入居者で酸素療法を受ける方の生活支援にも柔軟に対応している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望したかかりつけ医となっている。受診は、本人や家族の希望を聞き行っている。また、入居者の情報を事前に主治医にファックスで提供し、月2回の往診をして頂いている。診察の結果や心身の変化は、速やかに家族に電話で報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族に、ホームが対応し得る最大のケアについて説明し、終末期の過ごし方について繰り返し話し合い確認書をいただいている。看取りについての勉強会を行い、全職員が方針を共有している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護や個人情報の取り扱いについて勉強会やミーティングで話し合い、秘密保持の徹底を図り、入居者の誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけや対応に取り組んでいる。記録類の取り扱いに注意し、事務室へ保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム側の決まりを優先するのではなく、レクリエーションでは希望を聞いたり、気分が乗らない入居者は居室に戻り、職員が話し相手をしている。編み物をする人、掃除をする人、草むしりをする人等一人ひとりのペースと希望にそって支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、筋取り、テーブル拭き、後片付け等を一人ひとりの力量に応じてして頂いている。入居者が菜園から採ってきた野菜を食材にしたり、職員が一緒に食事を摂りながらさり気なく声をかける等し楽しい雰囲気づくりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日は決まっているが、入浴の順番等希望を取り入れ一人づつ入浴をしている。拒否する場合は、言葉かけの工夫やタイミングをはかり対応し、無理な場合はシャワーや清拭で清潔を保持している。介護度が高く体重の重い入居者には、職員3人で安全に配慮し対応している。季節のゆず湯や菖蒲湯、入浴剤で入浴が楽しめるよう支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を参考に、一人ひとりの経験や知恵等を発揮していただけるよう支援している。朝新聞を取りに行ったり、欅の枯れ葉を掃いたり、野菜作りや食事の準備等を行ったり、自分の役割として楽しみながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出かけたり、玄関のポーチで外気浴をしている。近くのスーパーへ買い物に行ったり、外食やドライブ、お花見等希望に添って出かけている。家族と一緒に外出や外泊は、届けを書き自由に出かけられるようにしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることへの弊害は研修を行い、全職員が理解している。車の往来が多い道路に面して玄関があり、入居者の安全を守る為に玄関に施錠はやむを得ず、家族には了解をいただいている。風呂場の入り口、勝手口は施錠をしていないので自由に出られる。入居者が外へ出たい時は、職員が見守りして出かけている。	○	入居者の安全を確認しながら、常時かけるのではなくかけなくても良い時間はないか、今後も職員とともに話し合い検討を続けていただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、入居者と共に消火・避難訓練をしている。夜間を想定した訓練も実施している。地域の区長や近所の方にも災害時の協力のお願いをしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の身体状況に配慮し、お粥やきざみ食、制限食等の提供支援をしている。食事や水分摂取量は厳重にチェックされ、記録している。入居者の好みを把握し、栄養のバランスに注意し支援している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は南に面し、冬になるとポーチで日光浴をしている。ホールは広く、吹き抜けの天井で圧迫感がなく、中央にはテーブルが並び、その横にはソファーが置かれ、テレビが観られるスペースになっている。壁には書や絵画、入居者の合同制作品が掛けられている。ホール横のキッチンからはご飯の炊ける臭いがし、季節の花が生けられ、季節感や五感を刺激するよう意識的に取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子、テレビ、写真、時計等の入居者の馴染みの物が持ち込まれて、居心地よく過ごせるよう配慮している。入居者や家族の希望により、畳で布団を敷いている方もある。		